本年度の学校教育の努力点

学校努力点『ワクワク・ドキドキがあふれる学校をめざして』



基本となる考え方

これまで、東陵中学校ではどの生徒も安心して登校できるよう、教職員が協働して生徒の生活・活動を支援する体制を構築してきた。これにより、多様な価値観を認め合いながら、秩序が保たれた安心できる環境が整えられてきた。

めざす学校の姿と努力点の設定

生徒が輝く学校をめざす。「生徒が輝く」とは、生徒が「もっと学びたい」「もっとここで過ごしたい」という気持ちになる状態である。生徒からこのような気持ちが湧き出るきっかけは「ワクワク（期待感）」や「ドキドキ（高揚感）」であると考える。このことから、令和７年度の学校努力点を「ワクワク・ドキドキがあふれる学校をめざして」とすることとした。

努力点の推進に向けて

１年間を通して、どのような働き掛けをし、どのような環境を作ると「ワクワク・ドキドキ」があふれるのかを追究していく。そのための土台を３つ設定し、それぞれについて、学年や各部会において具体的な手立ての立案をし、実践と振り返りを重ねる。振り返りから得た気付きを基に新たな手立てを立案していくことで、より多くのワクワク・ドキドキをあふれさせ、生徒が輝く学校にしていく。

③　未来につながるワクワク・ドキドキの体験づくり
【未来に向かう楽しさが感じられるキャリア教育】
→「キャリナビルーム」の整備
→今の自分と向き合い、未来の自分を考えるキャリアタイムの構築
→『教科指導』や『学級指導』に既に含まれているキャリア要素の見える化
→キャリナビルームや図書室等における「プチ講演会（仮称）」の開催
→職場見学（１年）・職場体験（２年）・上級学校見学（３年）での実体験の充実

②　ワクワク・ドキドキを引き出す授業づくり
【生徒が「もっと学びたい」という気持ちになる学習指導】
→ナゴヤ学びのコンパス（自分のペースに合わせて…、多様な人と…、夢中で…）の理念を土台として、東陵中らしさのある授業を追究する
→教員がやりがいを感じられる、計画的な授業研究
フェーズⅠ：いくつかの授業を見て、アイデアを思い浮かべる（１学期）
フェーズⅡ：教科ごとのチームで具体化に向けて意見を出し合う（夏休み）
フェーズⅢ：教科ごとに授業実践＆意見交流をする（２学期）※複数回やりたい
フェーズⅣ：課題と成果を基に次の授業づくりに向けた見通しをもつ（３学期）

①　ワクワク・ドキドキを支える生活基盤づくり
【安心して通い、安心して学ぶための生活指導・保健指導・特活指導】
→ING（いじめをしない・させない・ゆるさない）
→規律の整った生活支援（生活指導）
→健康な生活を支える保健指導
→多様な価値観を認め、生かし合える学級経営・学年経営
→心理的安全性が高く、もっと学び合いたくなる学習環境
→「居場所づくり事業」の活用による不登校生徒の支援
→「やりがい」と「負担」のグッドバランスを目指した部活動運営